

新居浜市SDGs推進プラットフォーム分科会活動計画書

分科会名称	資源循環の推進によるカーボンニュートラルの実現
分科会提案会員	アサヒグループジャパン株式会社
目的	<p>① プラスチックの資源循環、ごみ焼却・食品廃棄ロス削減を推進し、カーボンニュートラルに繋げる</p> <p>② 小中学生をはじめとした、市民の環境に対する意識向上</p>
解決すべき課題	<p>新居浜市における3分野の地域課題の②「環境」</p> <p>① プラゴミを削減し、資源循環を推進する上での仕組みづくり</p> <p>② 環境に対する意識向上に向けての機会の提供</p>
活動内容	<p>① <u>家庭用PETボトルの水平リサイクルの推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在容器リサイクル協会を経由している、家庭から収集されたPETボトルの全数・もしくは一部を水平リサイクル（PETボトルからPETボトル）に振り分ける ・ 家庭からの回収だけでなく、事業系のPETボトルも可能かどうか検討する <ul style="list-style-type: none"> ⇒参加想定業種：PETボトルを取扱う業種（自販機・小売り・清掃・環境関係） 新居浜市役所：環境・清掃関係部門 <p>② <u>オリジナル森のタンブラー製作によるごみ焼却、プラゴミ削減</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新居浜市内の産物のうち、廃棄される間伐材や植物等を加工したオリジナルタンブラーを製作 ・ 記念品やノベルティ、イベントでのリユースカップとして使用する <ul style="list-style-type: none"> ⇒参加想定業種：林業・農業関係、小売り・サービス・観光・イベント業 新居浜市役所：農林水産関係、観光関係部門

	<p>③ <u>環境・SDGs 認知度向上を目指した啓発活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生をメインに PET ボトルの水平リサイクルに関する授業やイベントでのワークショップを実施 参加想定業種：教育関係、サービス業、観光・イベント業 新居浜市役所：学校・教育関係部門 <p>※上記内容で分科会を立ち上げ、年内に活動を開始し、出来る内容から実施。PET ボトル水平リサイクルは 2025 年（令和 7 年）度から実施を目指します。</p>
<p>期待される成果</p>	<p>① PET ボトルの水平リサイクル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源採掘・原料生産・廃棄処理の各段階で発生する CO2 の抑制 ・何度でも元の製品にリサイクルできる ・リサイクルの用途を市民に可視化できる <p>② オリジナル森のタンブラー製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未利用資源の活用 ・プラごみの削減、CO2 削減 <p>③ 啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境・SDGs 認知度向上、行動変容

※必要に応じ、ページ数を増やしても差し支えありません。

新居浜市SDGs推進プラットフォーム分科会 添付資料

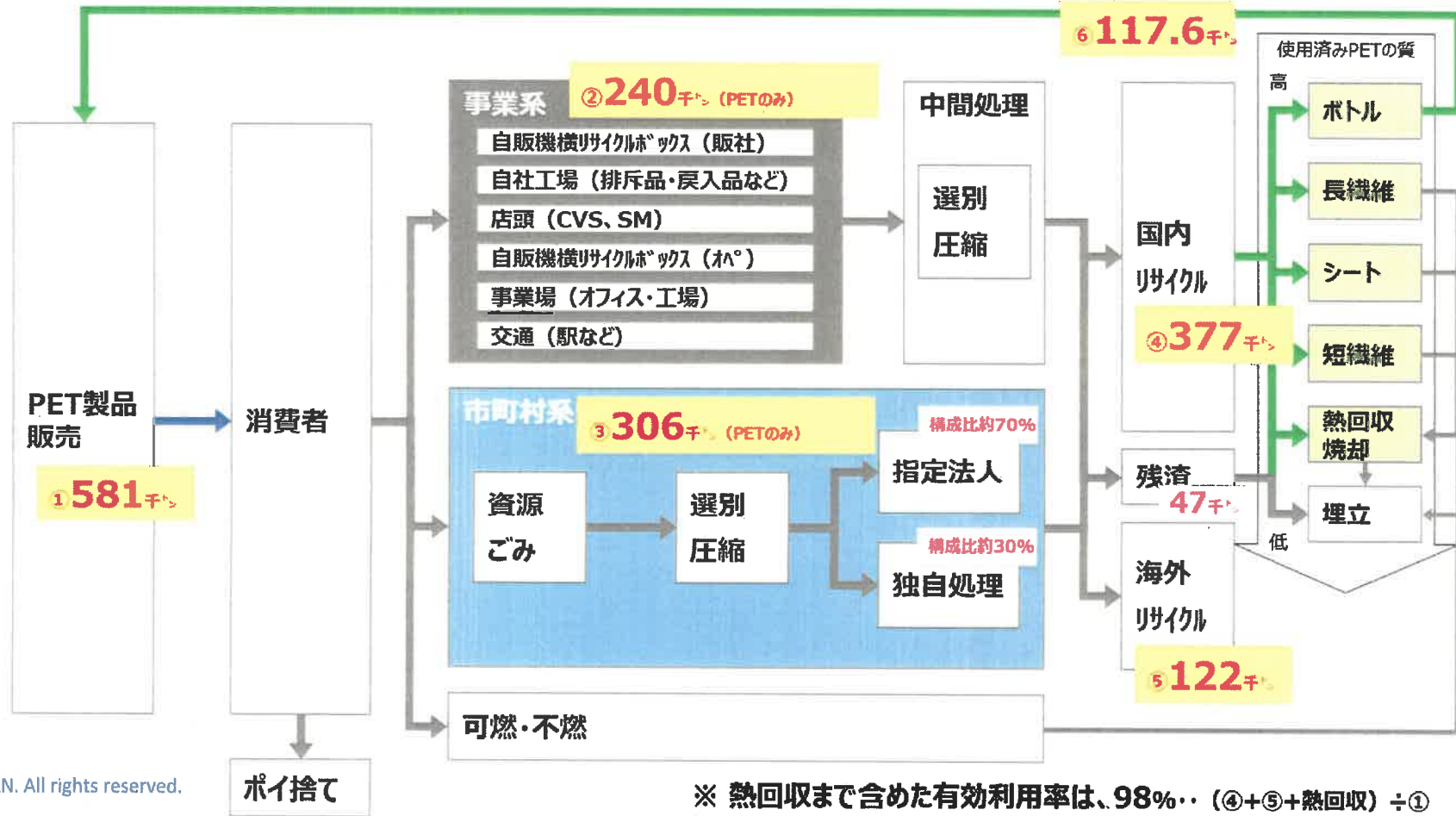


2023年9月20日
アサヒユウアス株式会社
One Asahiユニット
ローカルSDGs専任リーダー

①家庭用PETボトルの水平リサイクルの推進

PETボトルリサイクルのしくみ(2021年度)

回収率94%・・・(②+③)÷① リサイクル率86%・・・(④+⑤)÷①
 ボトルtoボトル率20.3.7%・・・⑥÷① ⇒ボトルtoボトルでの活用推進が課題。



※ 熱回収まで含めた有効利用率は、98%・・・(④+⑤+熱回収)÷①

ボトルtoボトルのメリット

PETボトルのリサイクルの種類：水平リサイクル（ボトルtoボトル）とカスケードリサイクル

使用済みの製品がいったん資源となり、また同じ製品として生まれ変わること

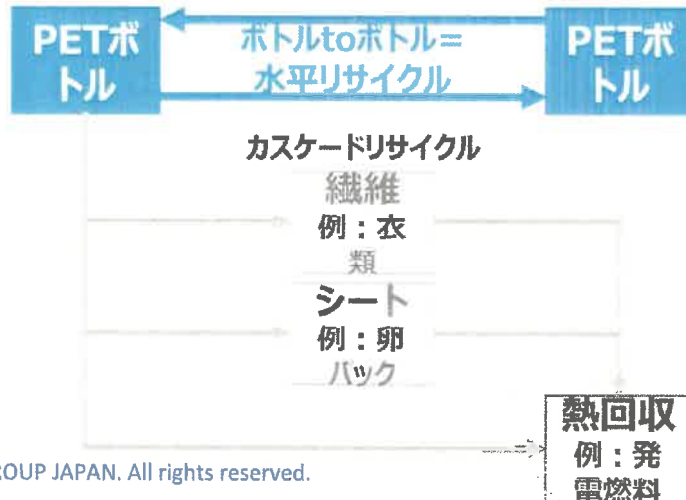
水平
リサイクル

- ・水平リサイクルの循環内であれば何度でもPETボトルに再生することが可能（単一素材・無着色のためリサイクルし易い）
- ・石油由来のPET樹脂を使用するよりCO2の排出を抑制（40%～60%程度の抑制になると言われている）
- ・回収後のリサイクル後の用途が決まっているので様々なステークホルダーの理解を得やすい（説明し易い）。

カスケード
リサイクル

使用済みの製品が資源となり、別の素材にリサイクルされること。

- ・リサイクルすると元の製品の品質には戻らず、品質の低下を伴うリサイクルのため、滝（cascade）のように段階的に製品をリサイクルすることからこの名がついている。



©ASAHI GROUP JAPAN. All rights reserved.

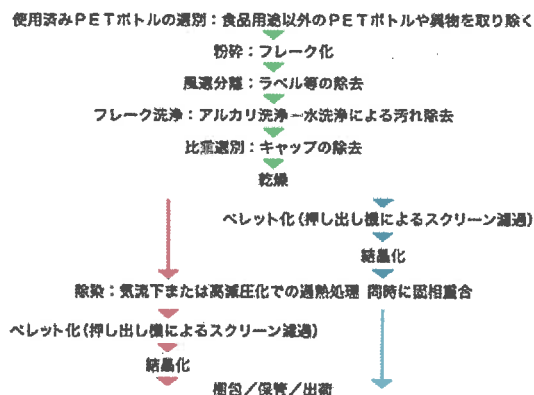
【ボトルtoボトルのメリット】

CO2の排出を抑制することができる
(資源採掘・原料生産・廃棄処理の各段階で発生するCO2の抑制)

何度でも元の製品に再生することができる

資源循環の仕組みをカーボンニュートラルの実現に繋げることができる

BtoBに用いられるリサイクルの種類:メカニカルリサイクルとケミカルリサイクル



FIGP
協栄
TRS
他

リサイクラー

PRT

○

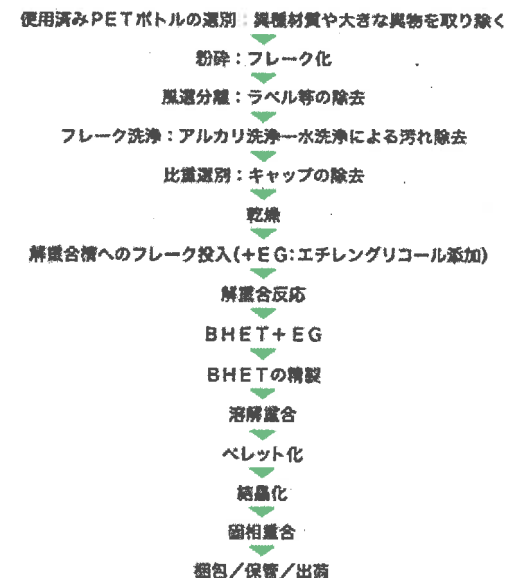
LCA

樹脂品質

○

○

コスト



参考:PETボトル排出量と主要リサイクラー

- ✓ 容りのPET取扱量（直近）を色の濃淡で表示。
- ✓ 主要リサイクラーの工場立地をプロット。（メカリサイクラー=青字、ケミリサイクラー=赤字）

全国のPETボトル排出量と主要リサイクラーの工場立地



②オリジナル森のタンブラー製作によるごみ焼却、プラゴミ削減

廃棄される間伐材等を加工したオリジナルタンブラー・マイボトルの活用推進。

森のタンブラー

- ✓ セルロースファイバー(木質繊維)を55%含むエコカップ
- ✓ 「使い捨て」を無くすためにパナソニックと共同開発



森のマイボトル

- ✓ 国産間伐材を活用した日本初のエコボトル。
- ✓ マイボトルを持ち運びワンウェイプラスチック削減を目指す



- ✓ 地方自治体や企業と共創し、未活用資源をアップサイクル
- ✓ 伝統産業の盛り上げや地域活性化に貢献する



◎他の活用事例

ワークショップによる環境問題・SDGs啓発
(小学校/環境イベント)

リユース容器として使い捨てプラスチック削減
(環境イベント)

ふるさと納税返礼品、ノベルティグッズ

③環境・SDGs認知度向上を目指した啓発活動 一覧

施策	対象	取組みの狙い	内容
環境ワーク ショップ① ボトルtoボト ル	小学生	「eco×楽しく SDGsに取り組もう」 自分でできるSDGs活動として ペットボトルの分別回収の大切 さを訴求します	<ul style="list-style-type: none"> ・20枚程度のスライドを使って地球温暖化や気候変動の現状を紹介、CO2削減のための工夫を考えるWS ・参加者がプラスチック資源の大切さを知り、分別回収への協力を ・分別を「楽しく」するためのアイデアを考え、付箋に書いて虹をかたどった台紙に張りだそう！
環境ワーク ショップ② 汎用版	小学生以上	プラスチックごみの問題等の説明を 通じて、環境問題・SDGsについて 学び、考えて頂きます	<ul style="list-style-type: none"> ・30枚程度のスライドを使ってプラスチックごみの現状やそれによる地球環境への影響等を学ぶ ・自分でできる活動として、「3R+Renewable」を紹介、日常での実践を訴求
森のタンブ ラー お絵描き教室	小学生以上	下絵のついた「森のタンブラー」へ未 来の自分の住むまちを想像してお 絵描きをして頂きます	<ul style="list-style-type: none"> ・森のタンブラーを紹介、どんな効果が期待できるのかを考える ・自分にできる第一歩として、森のタンブラーに“未来のまち”をイメージした絵を描き、実際に持ち帰って使ってもらう

各施策とも、学校などでの出前授業、各種イベントでの実施に対応可能です。

環境ワークショップ① ボトルtoボトル イメージ

【スライドの主な内容】

- ・サステナブル・SDGsって何？
- ・今日からできるekoを学ぼう
- ・地球温暖化や気候変動って何？
- ・リサイクルや分別の方法を知ろう
- ・みんなのアイデアで分別を楽しくやろう
- ・考えたアイデアを虹の台紙に貼ってね



ワークショップの様子(東京都墨田区)

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

環境問題 “地球温暖化”

便利でくらしやすい私たちの生活ですが…

たくさん商品を作るとCO₂が増える 木や森が無くなるとCO₂を吸収できなくなる

地球規模で気温が上がってしまう

気候変動による影響

気温の変化により、4,000種類もの動物が絶滅の危機に…!

今日からはじめて CO₂ × 削減 SDGsに取り組みよう!

みんなは分別できているかな？

ペットボトルを「キャップ、ラベル、本体」と分けているかな？

お家 自動販売機 公園や遊園地

ワークショップ

屋外でごみの分別を「楽しく」するためには？
みんなでアイデアを考えよう!

<p>どうしたらリサイクルボックスに分別してくれるかな？</p>	<p>ドラえもん の道具のようなアイデアでもOK!</p>	<p>アイデアいっぱいのにじを完成させよう!</p>
----------------------------------	-------------------------------	----------------------------

//

環境ワークショップ② 汎用版 イメージ

【スライドの主な内容】

- ・サステナブル・SDGsって何？
 - ・環境問題等の現状を知る
 - ・ // が起こる原因や背景を知る
 - ・解決のために必要な方向性や考え方、社会の取組等を知る
 - ・自分自身、身近でできる取組を考える
- ※企画に合わせて内容はカスタマイズ致します。

～「地球」はいま・・・～



「サステナブル」ってなんだろう？

サステナブル

Sustainable
「ずっと続けていける」



「サステナブルな社会」をつくることは、いつまでも私たち人間が、この地球上で暮らしていけるようにすることです。

日本が抱える大きな課題（もんだい）



このまま「ごみ」が増え続けると、どうなってしまうでしょう？

プラスチック「ごみ」が増え続けるだけでは濟まない!!!



プラスチック「ごみ」が処理されなかったり、ポイ捨てされると陸だけでなく海もプラスチック「ごみ」であふれかえってしまうよ。

プラごみを減らすためには **5R** が大切！



Refuse リフューズ	Reduce リデュース	Reuse リユース	Repair リペア	Recycle リサイクル
ゴミの元になるものを買ったり、もらったりしないことで、ゴミを生み出さない。	ゴミになる包装が少くないものを選ぶなどして、ゴミの発生を減らす。	一つのを繰り返し使うことで、ゴミになるまでの時間をのばす。	壊れたものを捨てずに修理して使う。	捨てられたゴミを、もう一度、原料やエネルギーに戻す。

江東区HP : <https://www.city.koto.lg.jp/381104/kurashi/gomi/5r/14139.html>

森のタンブラーお絵描き教室 イメージ

【スライドの主な内容】

- ・プラスチックごみの量は年間800トン以上
- ・プラスチックごみが多いと何が地球にとって問題なのかを知る
- ・森のタンブラーを紹介し、どんな効果が期待できるのかを考える
- ・自分にできる第一歩として、森のタンブラーに“未来のまち”をイメージした絵を描いてみる

ワークショップ②

森のタンブラーに「未来のまち」を描いてみよう！



様々にお絵描きされたタンブラーたち



13

新居浜市 SDG s 推進プラットフォーム分科会活動計画書

分科会名称	「資源循環型の地域社会を実現する会」(以下、当分科会という)
分科会提案会員	株式会社めぐる 株式会社ヒロコウ 株式会社ニューパック住友 新居浜生涯学習センター にはまグローバルネットワーク
目 的	地球温暖化を防止し持続可能な地域社会をつくるためには、“廃棄物を資源”として考える資源循環の意識と行動が必要です。 当分科会では、プラスチックと食品の廃棄物を中心に発生の抑制とリサイクルの仕組みを検討し、多くの人の意識と行動につながる活動を推進したいと考えています。
解決すべき課題	<p>多くの目標に関連するのが SDG s の特徴ですが、当分科会が目指す「循環型地域社会の実現」の取り組みも新居浜市が掲げる「3 分野の地域課題」にそれぞれ関連しています。</p> <p>まず課題「環境」については、地球環境の保全や脱炭素社会の実現のためには資源循環型社会への移行が必要です。循環型社会によって温室効果ガスが最大 36%削減できると言われています。(環境省データ)</p> <p>課題「経済」については、当地域にプラスチック関連企業が多く存在することから、先進技術を活用してプラスチック資源の循環を進めることで、地域産業にとって新たな価値が生まれる可能性があります。 また食品関連企業から出る廃棄物を使って新たな商品や特産品の開発ができれば、環境と経済の二つの課題の解決が進みます。</p> <p>課題「社会」では、ESD (持続可能な社会のための教育) の中で循環型社会を考えることです。そして小中高校、生涯学習大学、公民館などでの“学び”を通して日常生活の中の資源循環の大切さを認識し、一人一人の“行動変容”につながる取り組みが必要です。 また地域の人と一緒に活動するで、地域コミュニティーの醸成になると考えられます。</p>
活動内容	<p>当分科会では上記の目的と課題解決のために、以下の三つの活動を計画しています。(資料 1)</p> <p>① プラスチックリサイクル研究会 (資料 2) 地域のプラスチック資源循環の実態、法令、ほかの先進地域の実例などを調査して、段階的に実現可能な仕組みを今年度中に提言してゆく予定です。</p> <p>活動と一緒に取り組んでもらえるプラスチック関連企業や異業種の企業・団体・学校など多くの会員の参加と協力を期待しています。</p>

次年度以降には、家庭から出るプラスチックごみについて発生抑制や分別などの意識を高める活動を検討しています。

(日常生活の行動を変えることで、プラスチックごみを30%削減できるという実証研究もあります。)

②食品ロス削減・再生利用（資料3）

食品廃棄物の削減は、SDGs目標12に具体的に規定されていますが、ほかにも多くの目標に深く関連しています。

可燃ごみの3~4割を占める食品ロスを、燃やさず再生利用することで温室効果ガスを大幅に削減することが出来ます。

学校給食センターから出る食品ロスについては、全国の多くの給食センターや学校でESDの「食育+環境教育」として、発生抑制と再生利用（堆肥化など）を積極的に進めています。

当分科会が目指す食品ロス削減の活動として、今年度は「学校給食センターの食品ロス再生利用」に焦点を当て、実態や他の事例の調査を中心にして再生利用計画を提言したいと考えています。

公共施設から出る食品ロス再生利用の取り組みは、家庭や事業者に対して大きなインパクトになります。

食品関連の企業・団体、あるいは食品ロス削減に関心をお持ちの会員の参加をお待ちしています。

食品ロスの再生利用が増えてくれば、有機農業や農作物の地産地消にもつながり循環型地域社会の実現に向かって大きな前進になります。

③もったいないクラブ（仮称）の活動（資料4）

個人を対象にした「資源循環のための草の根運動」を計画しています。日常生活の中のもったいない体験や他の地域での取り組み事例などを話し合うことにより、意識の高揚と行動につなげる活動です。

今年度は、少人数の話し合いを数回開催する予定で、その中で行動に移す活動が出てくれば、来年度以降の継続や他の場所での開催を検討しようと考えています。

また具体的な活動が始まれば、活動を紹介する冊子を発行して活動の輪を広げて行きたいとも考えています。

地道な活動ですが、多くのプラットフォーム会員の参加とご協力をお願いします。

各セクターの中でも家庭の行動変容を促すことは難しいと言われて

います。
多くの人の行動変容のために、“出来ることを出来る人から始める”
”一人の百歩より 百人の一步” をモットーに取り組むことを考えています。

<p>期待される成果</p>	<p>当分科会は「資源循環型地域社会の実現」という大きなテーマを掲げていますので、来年度以降も継続した取り組みが必要です。</p> <p>今年度（2024年3月）の各活動による成果（見込）は、次の通りです。</p> <p>① プラスチックリサイクル研究会 現状実態や先進他地域の事例などを中心に調査して、プラスチック資源循環の実現のため段階的なリサイクルの仕組みを提言。 （具体的な発生抑制やリサイクルの推進活動は次年度以降）</p> <p>② 食品ロス削減・再生利用 発生抑制と廃棄物削減のうち、今年度は廃棄物の削減、特に学校給食センターから出る食品ロスの再生利用を中心にして、実態や事例を中心に調査をして、食品ロスの焼却を削減するための方策を提言をする。 発生抑制やその他の食品ロス削減の活動については、③の活動も見て次年度以降に検討する。</p> <p>③ もったいないクラブ（仮称）の活動 家庭の資源循環を話し合う会（場）をつくることで、参加者個人の資源循環に対する意識高揚と行動変容につながると考えていますが、さらに参加者の中から一緒になった活動が始まることを期待しています。</p>
----------------	--

※必要に応じ、ページ数を増やしても差し支えありません。

SDGsプラットフォーム／分科会のイメージ

資料1

<分科会の名称>

『資源循環型地域社会を実現する会』（仮称）



<グループの活動>

①プラスチックリサイクル研究会

地域におけるプラ循環の仕組み、技術開発テーマの検討など

②食品ロスのリサイクル推進

取り掛かりとして建設中の「学校給食センター」を対象に提言
次のステップで大型施設への導入を検討

③の市民活動と合わせ、学校や団体と協賛してイベント開催を検討

③「もったいないクラブ」（仮称）

<家庭で楽しく取り組めるSDGsの行動をする市民活動>

公民館、公共施設等で参加者が話し合う会合を開催

企業OB会、学校、生涯学習大学などにも参加を呼びかける

開催のイメージ：数回、10人前後、お茶を飲みながら意見交換

→活動内容を冊子にして配布する（予算が付けば）

- (例)
- ・省プラスチックな生活
 - ・食品ロスを少なくする生活習慣
 - ・家庭ごみの正しい分別
 - ・もったいない市（リサイクル）
 - ・家庭の生ごみ堆肥化
 - ・有機農業
 - ・衣類のリサイクル
 - ・賞味期限の近い商品情報
 - ・エコフォーキング
 - ・家庭の省エネ
 - ・コーヒーかす堆肥化
 - ・使い捨てカイロのリサイクル
 - など

<参加を呼びかけたい企業・団体等>

プラスチック関連企業

リサイクル企業

オブザーバー：行政、高専など

関心のある企業、団体

ESD推進団体

オブザーバー：行政、高専など

関心のある個人、団体、学校、

企業OB会など

オブザーバー：行政、高専など

プラスチックリサイクル研究会の課題

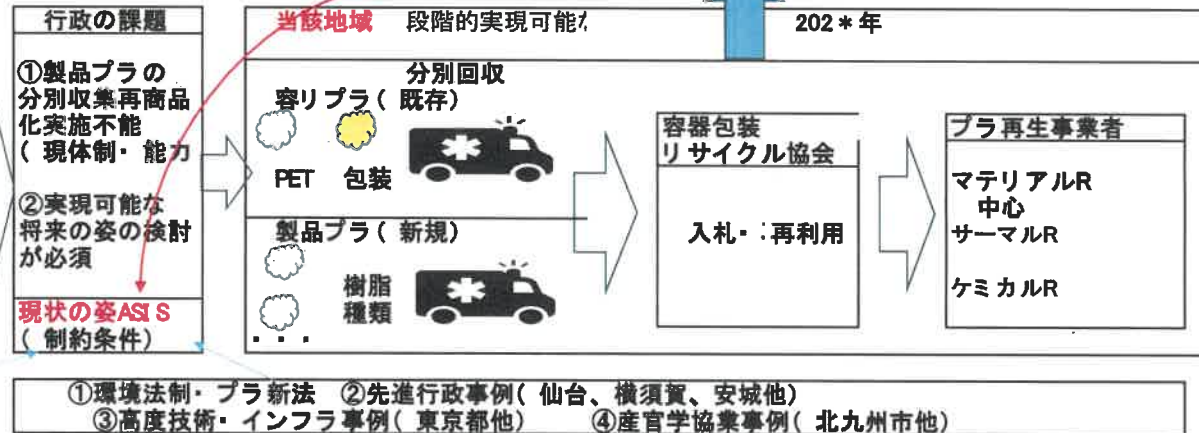
(資料2)

段階	実施項目	内容
STP1	領域設定	領域：プラスチック資源循環
STP2	領域探索	国、地域共通の社会課題
STP3	領域（構造化）顧客設定 提供価値設定 機能化	右図 地域住民 資源循環型社会の実現
STP4	ビジネスモデル化 計画設計	
STP5	実証準備・実施	
STP6	事業計画策定	



バックキャストとフォアキャストの組み合わせ

国の施策
①循環型社会形成 ②資源循環型経済への移行 ③2050カーボンニュートラル
+
プラ新法施行(2022年~)
①プラゴミリユース、リデュース ②繰返し使用、再生可能品代替 ③プラ分別回収・適正処理推進
+
循環型社会形成推進交付金 (プラ分別回収再利用要件付与 特別交付金(行政収集運搬)
国内プラリサイクルの現状
①バランス ②種類別処理方法



活動計画

≪令和5年(2023年度)≫

ステップ1 テーマメンバーでの勉強会(プラ新法等の法規、地域実態調査、国内先進自治体事例調査ならびに3R出口論検討(～11月末))

ステップ2 具体化テーマ(容器プラ(食品トレー等)回収率向上の体制検討)成案作り(含:一般市民認識レベル向上、行動の仕掛け作り(～24年1月末(予定)))

ステップ3 提言まとめ、令和6年度(2024年)活動計画まとめ(～2024年2月(予定))

食品ロスの削減：学校給食の食品ロスを中心に

資料3

1. 食品ロスの現状

食品ロスはSDGsの多くの目標に関連（特にゴール12/ターゲット12.3、12.5で2030年までにあらゆる食品廃棄物の半減を目指す）

日本の食品ロス：2021年度推計値=523万トのうち事業系279万ト家庭系244万ト（農水省）

食品ロスは可燃ごみの3~4割を占める。水分が8割以上で難燃性のため助燃剤（プラスチックごみ等）が必要

→温室効果ガスを多く排出（Co2排出係数0.46）+ 焼却費用の負担も

食品リサイクル法=年間100ト以上排出する食品関連企業は削減義務

2. 学校給食から出る食品廃棄物

「学校給食センターの食品廃棄物調査」2015年4月 環境省、文科省

発生量：17.2kg/人（食べ残し7.1 調理残渣5.6 その他4.5）

処理・リサイクルの方法：

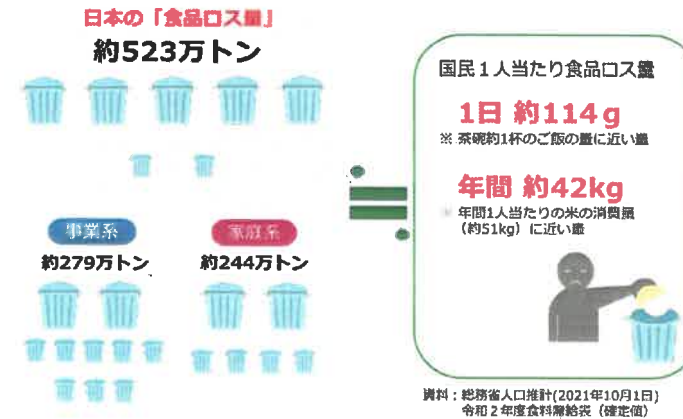
堆肥化40% 飼料化18% メタン化1% 焼却38%

リサイクル割合： 実施率 49%（センター、学校） リサイクル率（量）59%

処理する場所： 外部施設47% 施設内43% 1次処理11%

その後も全国の自治体、給食センター、学校が積極的に取り組んでいる

日本の食品ロスの状況（令和3年度）



3. 最近の動向

学校給食センターは「食品リサイクル法」の対象ではないが、食育+環境教育の一環として
また地域の「食品ロス削減」運動の一環として再生利用を実施する自治体や施設が増加している

再生利用の方法は、①自前で設備を持つ ②外部の民間処理施設等に委託 ③その組み合わせ

東京都区内（豊島区、世田谷区など）や札幌、仙台、福岡などの大都市は②が多く（仙台は一部①）

中小都市では①が多い。

松山市、東温市など近隣に民間の施設があるところでは②、計画中の西条市も②の可能性

出来上がった堆肥は、近隣の農家に利用してもらい給食食材として購入するケースが多い

地域住民に無償で配布するケースも多い（資源循環の体験学習、食材の地産地消）

小金井市では、夏休みや土日には近隣住民に家庭から出る生ごみを学校に設置した処理機を開放、

生ごみ削減、ボランティア活動による地域コミュニティの醸成に寄与している

4. 新居浜市の給食センター

学校給食センターの位置づけ 食品リサイクル法の適用外（適用への法令改正の要望あり）

廃棄物対策法では事業者、循環型社会推進法では自治体は積極的に推進する立場

整備計画：（仮）西部学校給食センター7,100食/日 現学校給食センター3,400食/日 **合計10,500食/日**

食品ロス発生量（予想）： 約180トン/年（=前述の調査 17.2kg×10,500食）

5. 今後の進め方 <調査ステップ>

実態調査 : 発生量の予測

リサイクル方法の検討: 利用できる近隣の既存施設の有無

→既存施設がない場合は新設

処理方式 機械式～堆肥式、消滅・液肥式、乾燥式など

設置場所の選定

費用と効果 処理能力、維持管理、初期投資、維持費など

運用形態 自営、外部委託、NPO、その他

他の自治体、給食センターの見学・聞き取り

事業者や専門家の意見聴取 (ふるさと財団の専門家派遣制度の可能性も検討)

資金調達方法の検討 投資額イメージ 機械式処理機を設置する場合の初期投資 1,000万円～2,000万円

調達方法 各種公的支援制度の利用を検討

リースのほか "クラウドファンディング"などで

これらを調査のうえ実現可能と思われる案を提言する 多くの人が参加する方法も検討

今後の進め方

この提言を参考に ①事業化調査 (FS) → ②基本計画 → ③実施計画の策定 のステップで 具体的検討が進むことを期待

循環型地域社会を推進する市民活動

資料4

活動の母体として『もったいないクラブ』（仮称）を立ち上げる

・活動の中心 分科会メンバーなどの有志*に参加を呼びかけて出来ることから実施
*実行体制（候補）：生涯学習センターSDGs未来の会（6人からなる任意団体）など

・活動内容 公民館、生涯学習センター等の公的施設で開催（1時間半程度を予定）
開催ポスター（1,000部程度）を市内に配布して会合への参加を案内
また学校、企業OB会、生涯学習大学の受講者などにも参加を呼びかける
1会場、10人程度の参加者による対話形式の会合
お茶やお菓子を用意して楽しく話し合う

・会合のイメージ 1. 活動事例の紹介*
環境省、消費者庁、農水省、経産省などのホームページに掲載されているSDGsの取り組みや
全国の自治体、NPOなど活動

2. 参加者が取組んでいること、私たちが出来る取り組みなどを自由に話し合う

～話し合いの結果、取組んでみようという意見や参加者が出てくれば～

3. これからの活動の仕組み、進め方などを検討

モットーは **“出来ることを出来る人から始めよう”** **“一人の百歩より百人の一步”**

<活動事例> ・プラスチックごみ削減 ・食品ロスを少なく ・衣類のリサイクル
・コーヒーかす堆肥化 ・使い捨てカイロのリサイクル ・ごみの正しい分別
・家庭の生ごみ堆肥化 ・有機農業 ・家庭の省エネ ・「もったいない市」不用品の交換
・賞味期限の近い商品情報 ・エコフォーキング（ゴミを拾いながら散歩、ウォーキング）

4. 冊子発行（予算確保が前提）：会合の様子、意見、活動を紹介→広く配布して活動の一助に

新居浜市 SDG s 推進プラットフォーム分科会活動計画書

<p>分科会名称</p>	<p>ABC 分科会 (Akagane Be the Change) (Akagane:あかがねの街、新居浜) キャッチフレーズ 「にいほまのみんなで踏み出す最初の一步」 (Art Able Agriculture の多様な分野でにいほまを変えてゆく)</p>
<p>分科会提案会員 (案)</p>	<p>にいほまグローバルネットワーク ※サポートメンバー (各団体：プラットフォーム会員、民間企業等)</p>
<p>目的</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市民主体で取組む持続可能な地域の実現 2. 「シビックプライド」を持った地域キーマン人財の育成、増加 3. 新居浜市 SDG s 達成のためのアートフェスティバル開催
<p>解決すべき課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口減少・若手世代流出への歯止め・抑制 2. 地元へのリターン人財数増加 (地域キーマン、I ターン (転職)、市外就職人材など)
<p>活動内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『SDG s アートフェスティバルの継続開催』 これまで 2 回の開催実績をふまえ、アートを通して全世界が目指す持続可能な開発目標 (SDG s 17 項目) を可視化し、ポストコロナ時代の新しい生き方、価値観を発信する 2. 新居浜の情報発信 アートフェス応募参加者、展示来場者ならびに分科会メンバー等への情報発信 (個人情報管理を前提としたつながりを実現) 3. Able art ,Agriculture*Art 等新たな魅力ある取り組みの検討
<p>期待される成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新居浜市民、関係団体・企業関係者の SDG s に対する意識、行動実践意欲の向上 2. 社会分野 (ESD 教育ニーズ) と環境・経済分野の他分科会テーマの連携、協働の推進

新居浜市SDGs推進プラットフォーム分科会活動計画書

分科会名称	SDGsを従業員に浸透させるための分科会
分科会提案会員	三井住友海上火災保険株式会社／有限会社ゴーイング
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム参加企業で、個別にワークショップを開催することで、従業員のSDGs取組マインドを醸成し、取組をサステナブルなものに定着させる。 ・「実装化」にあたって「Platform Clover」の活用を検討する。
解決すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsは「宣言」「登録」「認証」から、活動の具体化、継続化に移行するタイミングとなっている。 ・「会社として何をやるべきか」がわからない企業が多い。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個別企業における経営者のリードは必須。 ① 経営者向けセミナーの開催 ② 希望のあった企業へ個別に訪問し、SDGsワークショップを開催。従業員同士やファシリテーターとのディスカッションを通じて、参加型のSDGs取組を目指す。 <p>※目安として30名以上の従業員を雇用している企業へのワークショップ開催が望ましい。</p>
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目的や経営理念に帰着するため、自社従業員のエンゲージメント向上や経営者の想いを従業員に浸透することができる。 ・結果的に従業員の定着化、新規採用にあたってのブランド化を進める機会にする。

※必要に応じ、ページ数を増やしても差し支えありません。